# 彼岸に思う、布施の心

月日の経つのは早いもので、秋のお彼岸を迎えます。

太陽が真東から昇り、真西に沈むこの時期は、西方極楽浄土や、そこにいらっしゃるご先祖様に想いを馳せる節目の時期とされております。

また彼岸には、仏道を歩む者が実践すべき六つの修行、「六波羅蜜（ろくはらみつ）」を行うともいわれます。

六波羅蜜とは、布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧の六つです。簡単にいえば、悟りの世界に至るための六つの実践ではありますが、私たちが日々をより良く生きるためのヒントも、この六波羅蜜には散りばめられております。

今回は、その中でも「布施」について考えてみたいと思います。

「お布施」と聞きますと、お坊さんに渡す金銭を思い浮かべる方も多いのではないでしょうか。もちろん、それも布施の一つです。

古く仏教教団では、修行者は托鉢によって食べ物をいただき、「三衣一鉢（さんねいっぱつ）」といわれる最低限の持ち物で生活することを理想としていました。また、出家修行者が金銀、すなわち金銭を受け取ることを戒める戒律もあります。財物を持つことによって執着が生まれたり、争いやトラブルを引き起こしたりすることが、仏道修行の妨げになると考えられたのでしょう。

ところで、「布施」の「布」という字を見ますと、衣を作るための「布」をお坊さんに差し上げたことが、言葉の由来のようにも思えます。

しかし、実はそうではありません。

布施は、サンスクリット語の「ダーナ」、すなわち「与えること」「施すこと」を意味する言葉にあたります。そして「布施」の「布」には、布地という意味ではなく、「広く行き渡らせる」という意味があります。「宣布」や「流布」などに使われる「布」と同じような意味です。

---

毎朝７時より朝のおつとめを配信中

# 運海寺だより

第８号　2026年９月

JODO SHU
UNKAIJI
Established in 1888.
A humble tenple in Takikawa, Hokkaido.
Cherishing every connection.

NEXUS for Better Tomorrow.

運海寺公式ホームページはこちらから
YouTube・Instagram にて行事や境内の様子を発信中

つまり布施とは、もともと「他者に施し与えること」そのものを表す言葉なのです。

一方、現在の日本仏教では、お寺を維持し、仏具を整え、建物を修繕し、法要や教化活動を続けていくために、予算を立て、資金を管理する必要があります。当山でも、皆様からいただいたお布施は、寺院の運営維持などのため、大切に管理させていただいております。

ですから、現代において金銭を施すことは、大切な布施の形の一つです。

しかし、布施とは、決して金銭だけを意味するものではありません。

こんなお話を聞いたことはないでしょうか。

菩薩と餓鬼が、それぞれ食事をしています。しかし、食事には一メートルほどもある長い箸を使わなければならず、自分でつかんだ食べ物を、自分の口へ運ぶことができません。

そこで菩薩たちは、長い箸で食べ物をつかみ、お互いの口へ運びます。自分では食べられなくても、相手に食べさせることはできるからです。

一方、餓鬼たちは自分のことしか考えません。なんとか自分の口へ運ぼうとしますが、うまく食べることができません。

同じ食べ物、同じ箸が与えられていても、その心によって世界のあり方が変わってしまう、というお話です。

では、少し条件を変えてみましょう。

そこに、菩薩が一人、餓鬼が一人しかいなかったら、どうでしょうか。

菩薩は餓鬼の口へ食べ物を運びます。しかし餓鬼は自分のことしか考えていませんから、菩薩に同じように返してくれることは望めません。

それでも菩薩は、

「私はあなたに食べさせたのだから、今度は私にも食べさせなさい」

と言うでしょうか。

私は、そうではないと思うのです。

たとえ自分に何も返ってこなくても、相手が必要としていて、自分に与えることができるものがあるのならば、それを差し出す。

ここに、布施の大切な心があるように思います。

そして、私たちが施すことのできるものは、お金だけではありません。

誰かのために時間を割いて話を聞くことも、その方への布施でしょう。座りたい方に席を譲ることも、優しい言葉をかけることも、笑顔で接することも、布施と言えるでしょう。

けれども私たちは、「自分はこれだけしたのに」「ありがとうくらい言ってほしい」と、ついつい見返りを期待してしまいます。今、この文章を書いている私も同じです。

だからこそ、布施は「修行」なのでしょう。

何の見返りも求めず、自分のできる範囲で、自分の持っているものを誰かのために差し出してみる。簡単なようで、なかなか難しいことです。

このお彼岸、

「今日は、たった一つでも、誰かのために何かを施してみよう」

そのような思いを少し心に留めて、お過ごしいただけましたら幸いです。

# お盆が無事に終わりました

先月は、皆様のお宅へ伺い、お盆のお参りをさせていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

今年は、住職と副住職が手分けをして伺わせていただきました。お約束のお時間どおりに伺えないこともあり、ご迷惑をおかけいたしましたこと、大変申し訳ございませんでした。

より円滑に皆様のお宅へ伺うことができるよう、日程や時間の組み方などについて工夫してまいりたいと考えております。

一軒一軒、大切にお参りさせていただくことを心がけてまいりますので、来年もどうぞよろしくお願いいたします。

八月十六日に厳修いたしました「新盆施餓鬼法要」並びに「盆施餓鬼法要」には、芦別寺のご上人方にもご随喜を賜り、多くの皆様にご参詣いただき、盛会のうちに終えることができました。ご参詣いただきました皆様に、改めて御礼申し上げます。



法要当日は暑い中でのお勤めとなり、また、椅子が足りなくなるなど、ご不便をおかけしたこともございました。申し訳ございませんでした。

棚経、施餓鬼法要ともに、反省すべきところを挙げれば尽きません。しかし、その一つ一つを来年へつなげ、少しずつでも、皆様に安心してお参りいただけるお寺にしていくことが大切であると感じております。

住職・寺族をはじめ、檀信徒の皆様とともに、より良い伽藍の整備と寺院運営に努めてまいりたいと存じます。

今後とも、運海寺の護持発展にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 副住職より

九月といえば、季節は秋でしょうか。特に北海道におりますと、九月の気候は、夏というよりも秋という方がふさわしいように思います。

さて、秋といえば、「〇〇の秋」という言葉をよく耳にします。食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋。暑くもなく、寒くもない季節ですから、趣味や運動など、何かに取り組むにもよい時期なのかもしれません。

お檀家様のお宅に伺いますと、「どんな食べ物が好きなんですか」と聞いてくださることがあります。私はなんでも好物でございますので、何でもおいしくいただきますが、考えてみると、季節によって食べたいものは変わるものです。夏には桃やスイカ、秋には梨やぶどう、りんごなど、その季節ならではの味があります。

今では取り寄せるなどをすれば、一年を通して様々な食べ物が手に入りますが、「その時に食べられるおいしい

令和８年９月発行　第８号　運海寺だより
【発行者】運海寺寺務所【住所】北海道滝川市明神町 2-6-5【TEL】0125-23-2893【FAX】0125-24-3409
【WEB】https://unkaiji.or.jp　【Instagram】instagram.com/unkaiji1888【YouTube】youtube.com/@unkaiji

ものを、その時においしくいただく」ということも、大変ありがたいことでございます。

秋の味覚といえば、皆様は何を思い浮かべますか。私は、自分で作る栗の渋皮煮です。今年も作るのを楽しみにしています。

季節の変わり目ですので、どうぞご自愛の上、お過ごしください。

## 境内の景色より

今号は、境内西方殿側にあるプルーンの木のご紹介です。この木は、十年ほど前に苗を植えたのですが、今年は、樹高3メートルを超えるまで成長し、ようやく食べられるような実をつけております。

味のことは、市販のものとは比べものになりませんが、酸味はあれども美味しく、寺族を楽しませてくれています。実りの秋ですね。



## 今後のお知らせ

**9月14日（月）**
明照喫茶｜13:00 ～ 16:00

**9月23日（水）**
当山副住職による一口法話｜12:30
秋季彼岸法要｜13:00

**10月14日（水）**
おみがき｜10:00 ～ 12:00
明照喫茶｜13:00 ～ 16:00

**10月30日（金）**
十夜会　法話｜13:00 ～
　　法要｜14:00 ～

各種行事は、都合により日程を変更する場合や中止する場合がございます。
お手数ですが、公式ホームページやＳＮＳをご確認いただくか、お電話にてお尋ねください。

## おみがき

「おみがき」とは、檀信徒のみなさまに中心となっていただき、本堂内陣の仏具を磨く奉仕活動です。

当山では、春秋の年二回行っております。磨けば磨くほど輝きを増し、終わったあとはなかなかの達成感がありますよ。どなたでもぜひお気軽にご参加ください。





@kazzhisa_yaguchi

**めいしょうきっさ**
毎月十四日
午後一時～四時
随時出入り自由

月一回の当山の喫茶の場です。美味しいコーヒーとお菓子をご用意してお待ちしております。

どなたでもお気軽にお越しください。



令和８年９月発行　第８号　運海寺だより
【発行者】運海寺寺務所【住所】北海道滝川市明神町2-6-5【TEL】0125-23-2893【FAX】0125-24-3409
【WEB】https://unkaiji.or.jp　【Instagram】instagram.com/unkaiji1888【YouTube】youtube.com/@unkaiji